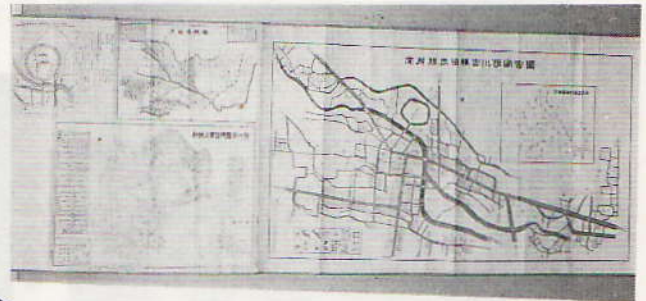


この一年、記念館に寄贈された資料を紹介します。

谷地森隆氏寄贈(市内西館在住)

### ① 古川町宿舍図

明治34年10月に行われた東北特別大演習の際、兵隊が泊まる民家の部屋割りや拝観案内のために志田郡古川町役場が作成した。谷地森隆氏の祖父谷地森隆徳氏が書記として役場に勤めており、演習受け入れの会計係として宿割りや地図の作成にかかわった。当時の古川の様子を知る貴重な資料。



古川町宿舍図

# 新資料紹介

## ② 吉野年蔵町長の時の辞令

吉野作造の父年蔵が町長の時(明治32-34年)の辞令は、谷地森隆徳氏が書記として役場に勤めていた時のもの。吉野年蔵が町長であったことをしめす一次史料である。

## たまの夫人の着物

吉野作造夫人のたまのが着用していた着物。たまの夫人の世話をしていた、吉野の姪の故「みよし」さん(若柳町で幼稚園経営)より、千田さんが貰い受けたもの。

吉野俊造(作造長男)氏寄贈 (調布市在住)

## どびんと茶碗 浴衣生地

吉野作造が歌舞伎俳優市川猿之助(初代)からもらったとされるもので、屋号の沢瀉屋(おもだかや)の紋が入っている。次回企画展で展示する予定。

## 吉野作造名刺

吉野作造の名刺。だれに宛てたかは不明ながら、裏に走り書きで「当方の都合尤もよろしく候間早速御出で被下度明日は是非御一泊の上明後日御出発の程奉願候。今夜御出で被下候事と信じ直ちに帰宅偏に奉願上候」とある。東京神田神保町の八木書店店主より寄贈された。柴田宵曲氏が買った古本のなかから出て来たものようである。

牧野東彦氏寄贈

## 吉野作造からの 牧野輝智あて葉書

大正13年7月15日。  
「本をわざわざ御送り下さいましてありがとう存じます。私の尤も不得手な方面であるに依り頂戴したのを機会に一つ勉強してみる積りです。」  
牧野輝智は明治12年熊本生まれ。東京専門学校(現早稲田大学)を卒業し、熊本市立商業学校、佐賀中学校を経て、明治38年古川中学校教諭となった。明治44年には東京朝日新聞社に入社、大正12年10月には編集局の中樞となった。主に経済関係の記事を担当し、吉野が朝日新聞に入社後交流関係をもった。牧野が送った本は「通俗財話」といい、吉野にとって経済は「尤も不得手な方面」であったようだ。

牧野輝智あての八ガキ(裏)



安岡昭男氏寄贈

## 明治文化全集 書目解題

当館では「明治のなかのヨーロッパ」と題して、吉野作造と明治文化研究会について企画展を開催しました。その際、法政大学教授安岡昭男氏より、当館で所蔵していなかった「明治文化全集書目解題」を寄贈して頂きました。これは、「明治文化全集」の刊行に先立ち、パンフレットとして印刷発行されたもので、明記してはいないが吉野が大半の文章を書いたといわれている貴重な史料である。



たまの夫人の着物